《短　信》

# 非動的述語の「継続相相当形式」

## ——青森五所川原方言の場合——

八　亀　裕　美

1．英語の非動的述語にprogressiveがあり，「その時だけ～だ」という意味を表すことが知られている。

He is clever.　　[恒常的特性]

He is being clever.　[一時的状態]

2．現代日本語の標準語にこれに相当する形式はないが，青森五戸方言の形容詞に同様の現象があることが，金田（1993）によって報告されている。「青森五戸方言では，完成相と継続相の対立形式を形容詞がもっている。ここでは形容詞の「完成相」～イ，～カッタがまるごとの状態をあらわし，「継続相」～クテイタ（実際の発音はクテラ），～クテイタッタ（同じくクテラッタ）が，分割されたアクチュアルな状態をあらわす。」金田（1993：130）

アー，コリャー，ンマクテラ。（表記はカタカナに直した）あ，これうまいよ。

※注　当該方言の運動動詞の継続相現在は「シテラ」の形である。

3．今回，青森五所川原方言の母語話者である前田理佳子氏（37）（大阪大学大学院文学研究科助手）から，このことに関連して興味深い事実を伺うことができたので，ここに簡単に報告しておきたい。五戸方言は南部方言，五所川原方言は津軽方言に属する。

4．まず，形容詞に関しては，金田（1993）と同様の結果が得られた。金田論文の全体をここで繰り返し紹介することは紙幅の関係でできないが，五戸と同様の現象が五所川原でも確認された。ただし，金田（1993）では，過去にも～カッタ（完成相）・～クテラッタ（継続相）の対立があると報告されているが，五所川原方言についてインフォーマントの語感では「～カッタ形は標準語的で方言形ではないような気がする」との指摘があった。従って，五所川原方言では，「アゲエ（赤い）」を例にとると，基本的なパラダイムは次のようになっていると思われる。

（五戸の～クテラッタは，五所川原では～クテアッタとなる。）

| | 一時的状態（アクチュアル） | 恒常的特性（ポテンシャル） |
|---|---|---|
| 非過去 | アガクテラ | アゲエ |
| 過去 | アガクテアッタ | |

※アゲエで一時的状態を表すこともできるが，明示する場合はアガクテラ。

（脱時間　アゲエ）

（標準語形　アガカッタ）

過去において，アクチュアル―ポテンシャルの差異があいまいになることは，形態論的手段を持たない標準語の分析でも観察されることであり（八亀2001：71，96），興味

深い。また，当該方言が，東北の諸方言に見られる「〜ケ」という形で形容詞の過去を表す手段を持たない，ということも視野に入れてさらに検討が必要である。

5. さらに，五所川原方言では，いわゆる形容動詞や述語になる名詞にも同様の形式が見られる。

A サン，今日ハ元気デラ。(いつもは元気がない人なのに，今日は元気だ。)

B 男，スーツ着テ，今日ハ，ハンサムデラ。(いつもとは違ってハンサムに見える)

C サン，正直者デラ。(いつもと違い，意外に正直な態度を見て)

ここで，注目したいのは，名詞述語文であっても，属性表現（いわゆる≪特性≫を表すもの)については，この継続相相当形式を用いることで，アクチュアル化する(≪状態≫を表す）ことができる，という点である。

6. こうしてみると，この現象を説明するのに，金田のように「動詞のアスペクトの対立形式を形容詞がそのままとりこんだ」(金田 1993：130）いわゆる「擬似アスペクト」と考えるよりも，むしろ，すべての述語文が共通して持つ「時間的局所限定（時間的限定性)」を形態論的に表している，と見る方が無理のない方向ではないだろうか。時間的局所限定とは，「出来事の時間的現象化の個別・具体性の有無」を表す意味・機能的なカテゴリーである。現代日本語の標準語にはこれを表す形態論的な手段はないが，最初に見た英語の progressive や，スペイン語のコピュラの使い分け，ロシア語の形容詞などが知られている。また，村上智美氏の調査によれば(第 72 回日本方言研究会で報告)，熊本県松橋方言の形容詞のヨル形も，同様の現象と考えられるらしい。

7. 五所川原方言と同じ津軽方言に属する弘前方言でも，ほぼ同じ現象が観察されるらしい(阿部貴人氏 personal communication)。幸い動詞のパラダイムがある程度判明しているこれらの方言を足がかりに，今後，より詳細な調査を進めていかなければならない。

**参考文献**

金田章宏 1993「動詞と形容詞をつなぐもの」『国文学解釈と鑑賞』1 月号

工藤真由美 1999「青森県五所川原方言の動詞のアスペクトとテンス」『国語学研究』第 38 集別冊

工藤真由美 2000「アスペクト・テンス体系と極性」『現代日本語研究』第 7 巻

村上智美 2001「形容詞に接続するヨル形式について――熊本県下益城郡松橋町の場合――」(第 72 回日本方言研究会，研究発表原稿集)

八亀裕美 2001「現代日本語の形容詞述語文」『阪大日本語研究』別冊 1

König, Ekkehard 1995 He is being obscure : Non-verbal predication and the progressive. In *Temporal reference, aspect and actionality, Vol 2 Typological Perspectives.* Torino : Rosenberg & Sellier

――大阪大学大学院文学研究科院生――

(2001 年 7 月 19 日　受理)